TABUCHI ELECTRIC

未来を照らす エネテラス EneTelus

2016年3月期
第3四半期決算説明資料

2016年1月29日

田淵電機株式会社（証券コード：6624）

Global Power-Solution Company

ZEBRA 田淵電機株式会社

2016年3月期 第3四半期 業績の概要

連結業績概要

単位：百万円

	2015年3月期 3Q累計	2016年3月期 3Q累計	差異	率
売上高	37,918	29,910	▲8,007	▲21.1%
営業利益	7,940	4,250	▲3,689	▲46.5%
経常利益	8,173	4,255	▲3,918	▲47.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,295	2,999	▲2,296	▲43.4%

連結セグメント別業績概要

単位：百万円

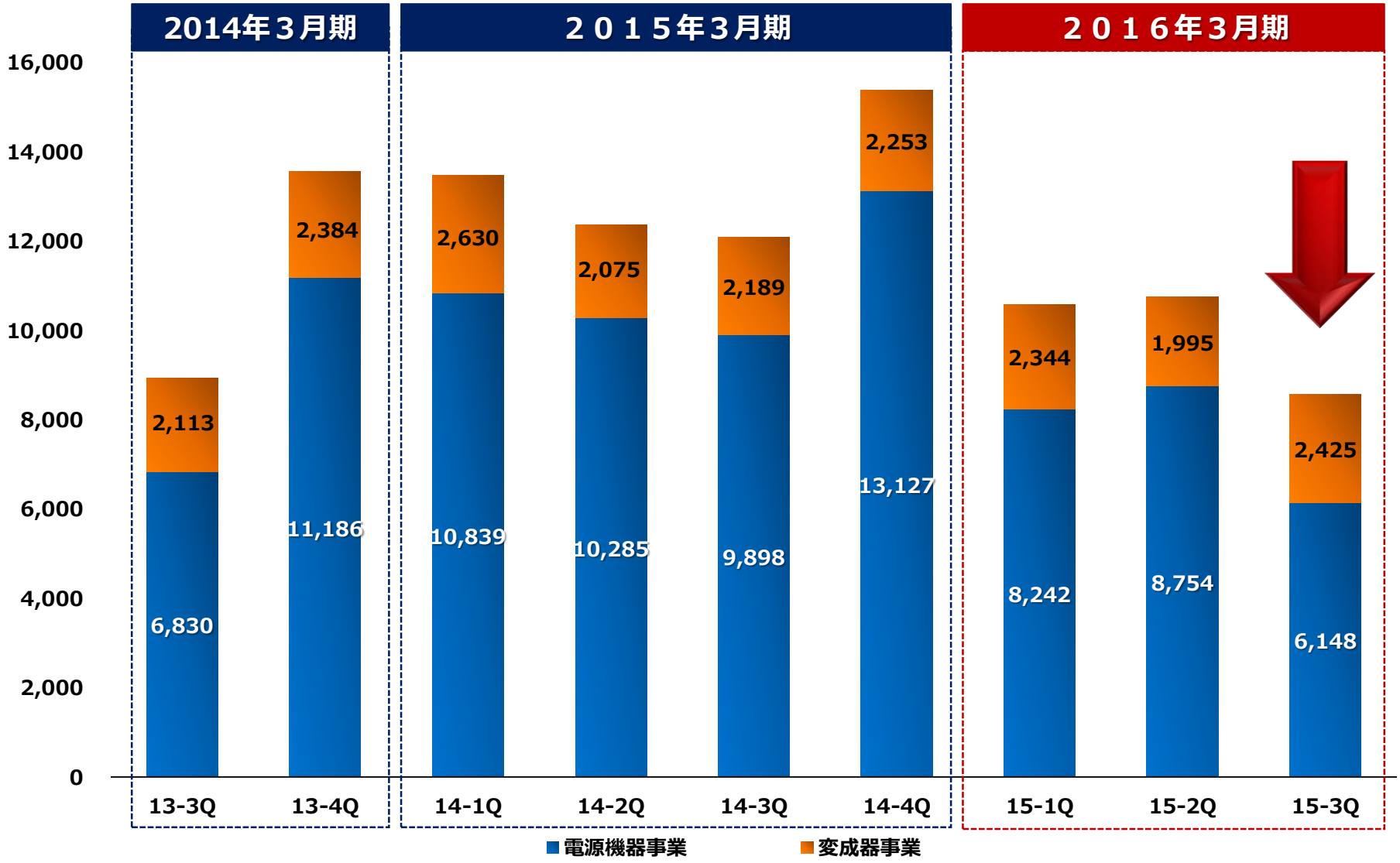
	2015年3月期 3Q累計		2016年3月期 3Q累計		前年度比増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
電源機器	31,022	7,219	23,145	4,301	▲7,877	▲2,918
変成器	6,895	868	6,765	574	▲130	▲293
調整額	-	▲147	-	▲624	-	▲477
連結計	37,918	7,940	29,910	4,250	▲8,007	▲3,689

連結セグメント別売上高概要

電源機器事業	変成器事業
前年同期比 ▲25.4%	前年同期比 ▲1.9%
➢ 国内太陽光発電市場が縮小、特に当社主力領域である住宅用・小規模産業用が苦戦 ➢ 北米太陽光発電市場への投入遅れ	➢ 中国市場調整によりリアクトル不調 ➢ 事務機器市場も調整局面により高周波トランスの生産台数減

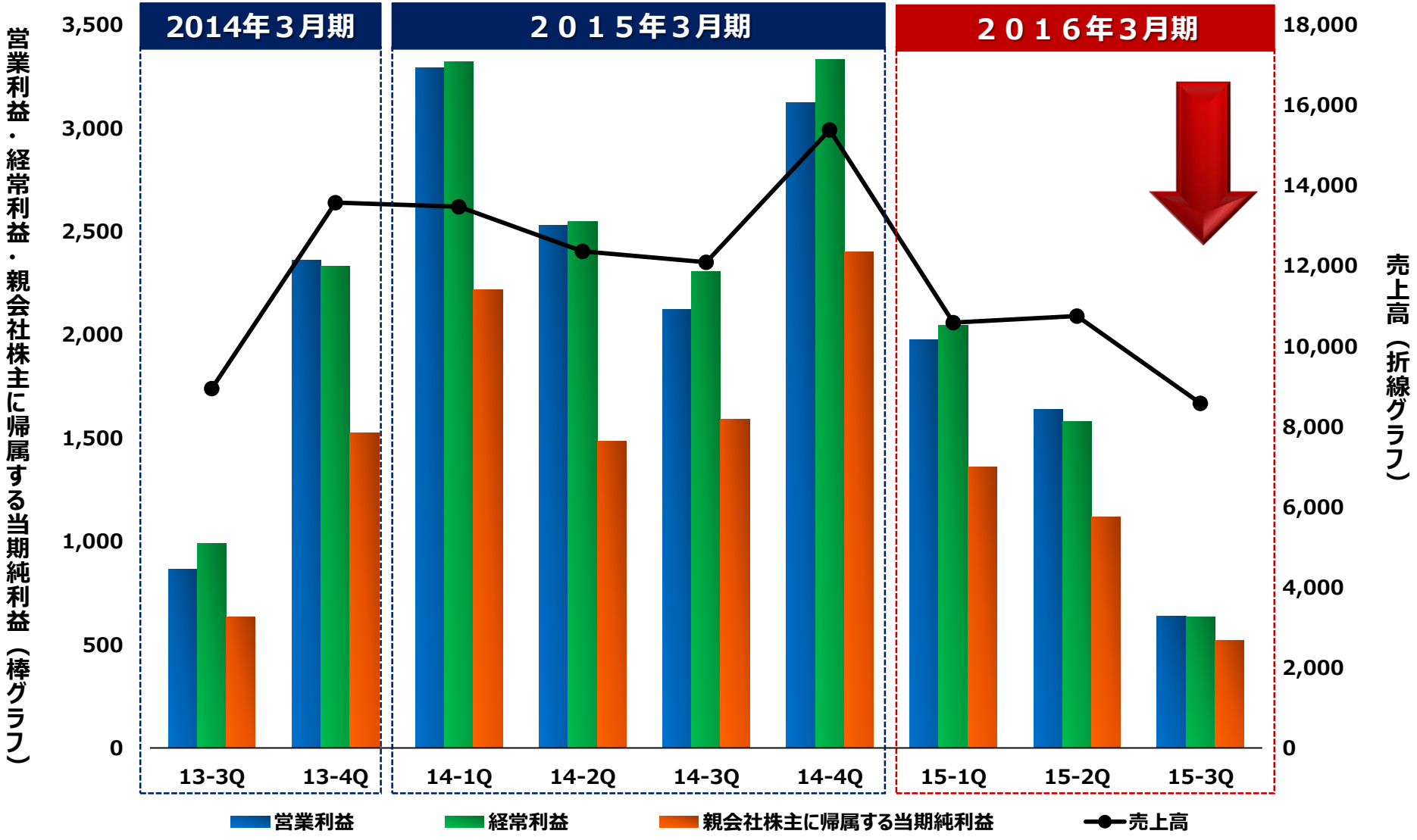
連結セグメント別売上高四半期推移

単位：百万円



連結業績四半期推移

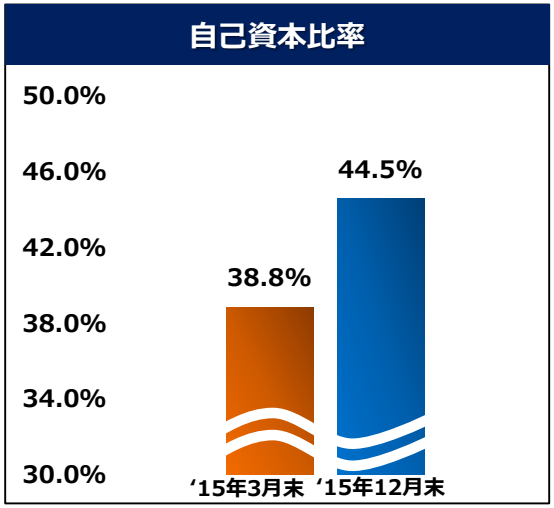
単位：百万円

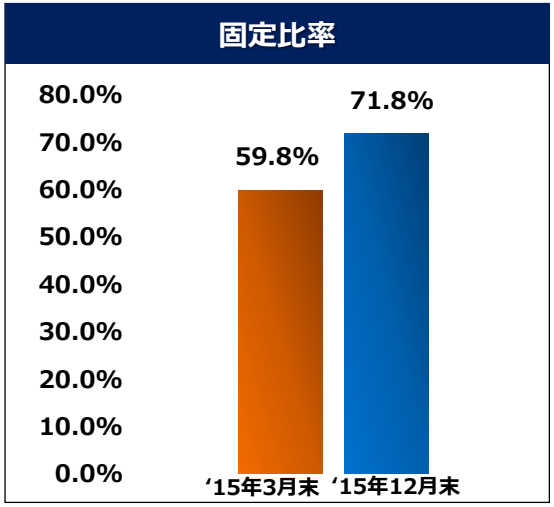


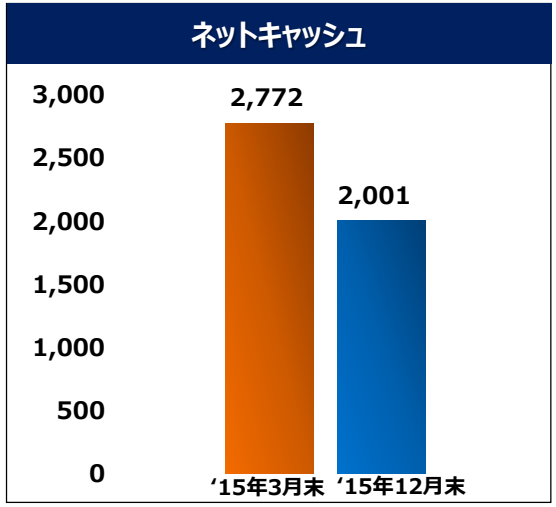
連結貸借対照表概要

単位：百万円

	‘15年3月末	‘15年12月末		‘15年3月末	‘15年12月末
現預金	6,868	6,479	仕入債務	8,085	8,198
売上債権	15,408	6,468	短期有利子負債	2,090	2,647
棚卸資産	5,229	9,999	その他（流動）	7,594	3,707
その他（流動）	1,527	2,380	長期有利子負債	2,006	1,830
固定資産合計	8,765	11,900	その他（固定）	3,365	4,268
繰延資産	2	1	純資産	14,661	16,577
資産計	37,802	37,230	負債･純資産計	37,802	37,230







今後の取り組みと見通し

今期業績について

通期業績下方修正（売上高・営業利益・経常利益・純利益）

単位：百万円

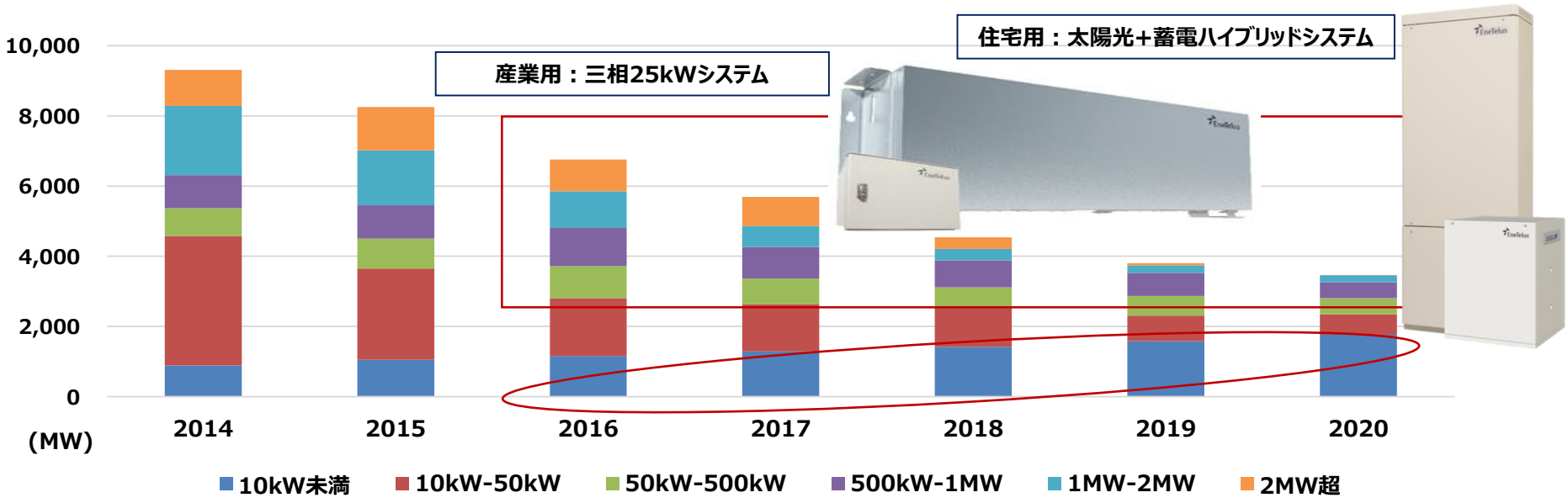
	2015年3月期	2016年３月期 当初予想	2016年３月期 前回予想	2016年３月期 今回予想
売上高	53,299	55,000	50,000	42,000
営業利益	11,061	8,500	7,500	5,500
営業利益率	20.8%	15.5%	15.0%	13.1%
経常利益	11,506	8,300	7,500	5,500
親会社株主に帰属する当期純利益	7,695	5,500	5,000	3,700
1株あたり配当	年間計 13円 （中間5円 期末8円*） *記念配当3円を含む	年間計 16円 （中間8円 期末8円）	年間計 16円 （中間8円 期末8円）	年間計 16円 （中間8円 期末8円）

- 国内太陽光発電市場の縮小加速
- 12月に初出荷をしたものの、北米において市場展開遅れ

日本市場について

太陽光市場においては住宅用・産業用とも特徴ある製品を投入強化

- ベースロードとして住宅市場は今後も堅調な成長を予想
  ⇒商流の確実な構築により太陽光＋蓄電ハイブリッドシステムの拡販
- 産業用、特に高圧・特別高圧領域を開拓し販売増をねらう
  ⇒マルチストリングの優位性を武器に三相25kWシステムの展開加速



（出所：（株)資源総合システム）

北米市場展開について

リソースの重点投入と展開加速

北米市場を戦略市場とする当社方針に変更なし

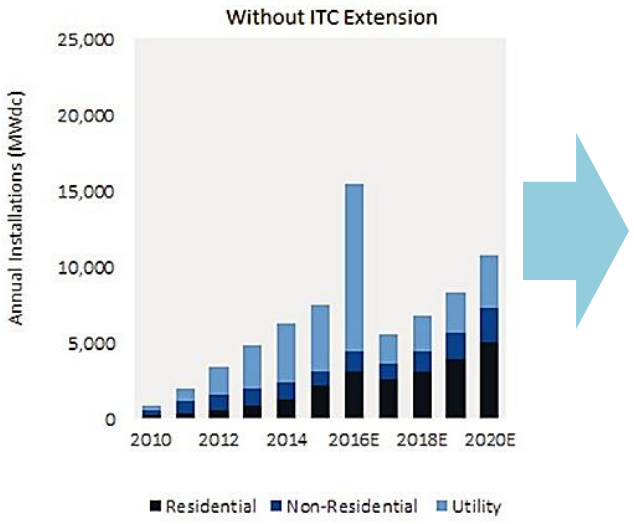
ただし、実証実験から販売までのプロセスが長引いた等の複合的な要因により製品投入の遅れが発生

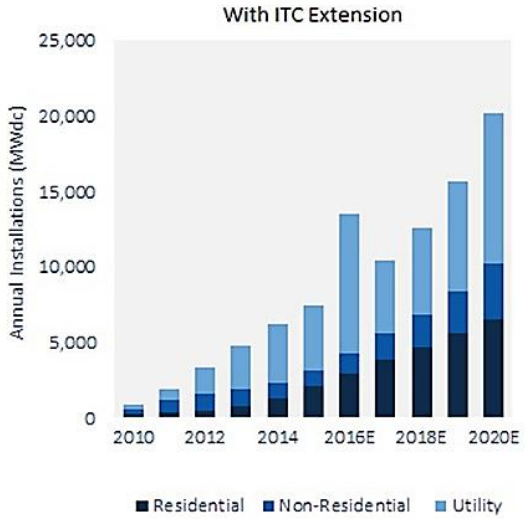
3Qではまだ遅れを完全には取り戻せなかったものの、リソースの重点投入により挽回開始、製品の出荷を開始。2015年第4四半期および2016年度以降については、北米市場へのさらに徹底したリソースの投入を図り、当市場攻略達成にむけて展開する

北米市場展開について

北米を当社戦略市場とする

- 電力自由化が進んでいる米国においては、多種多様の良質なエネルギー源を必要としており、太陽光発電を中心とする再生可能エネルギーの最大導入は連邦・州、両レベルにおいて重要政策となっている
- 2015年12月に、これまでも米国太陽光発電市場の重要な牽引材料となっていた、「Investment Tax Credit（ITC・再生可能エネルギー導入投資税控除）」の5年間の延長法案が米連邦議会で可決され、従来の想定よりも長期に亘って米国太陽光発電市場の力強い成長が予測される





※今回のITC延長による米国太陽光発電市場への予測される影響。ITC延長がない場合には2016年を一旦のピークとし、2017年の市場縮小、その後の安定成長化が予測されていたが、ITC延長により、2017年以降の市場規模が大きく底上げされることが予測されている。GTM Research調べでは、2020年には20GWの年間導入量予測、全米太陽光発電協会会長Rhone Resch氏の予測では2020年までに累計導入量100GWを予測し、米国の全発電量の3.5%を担うとされている。

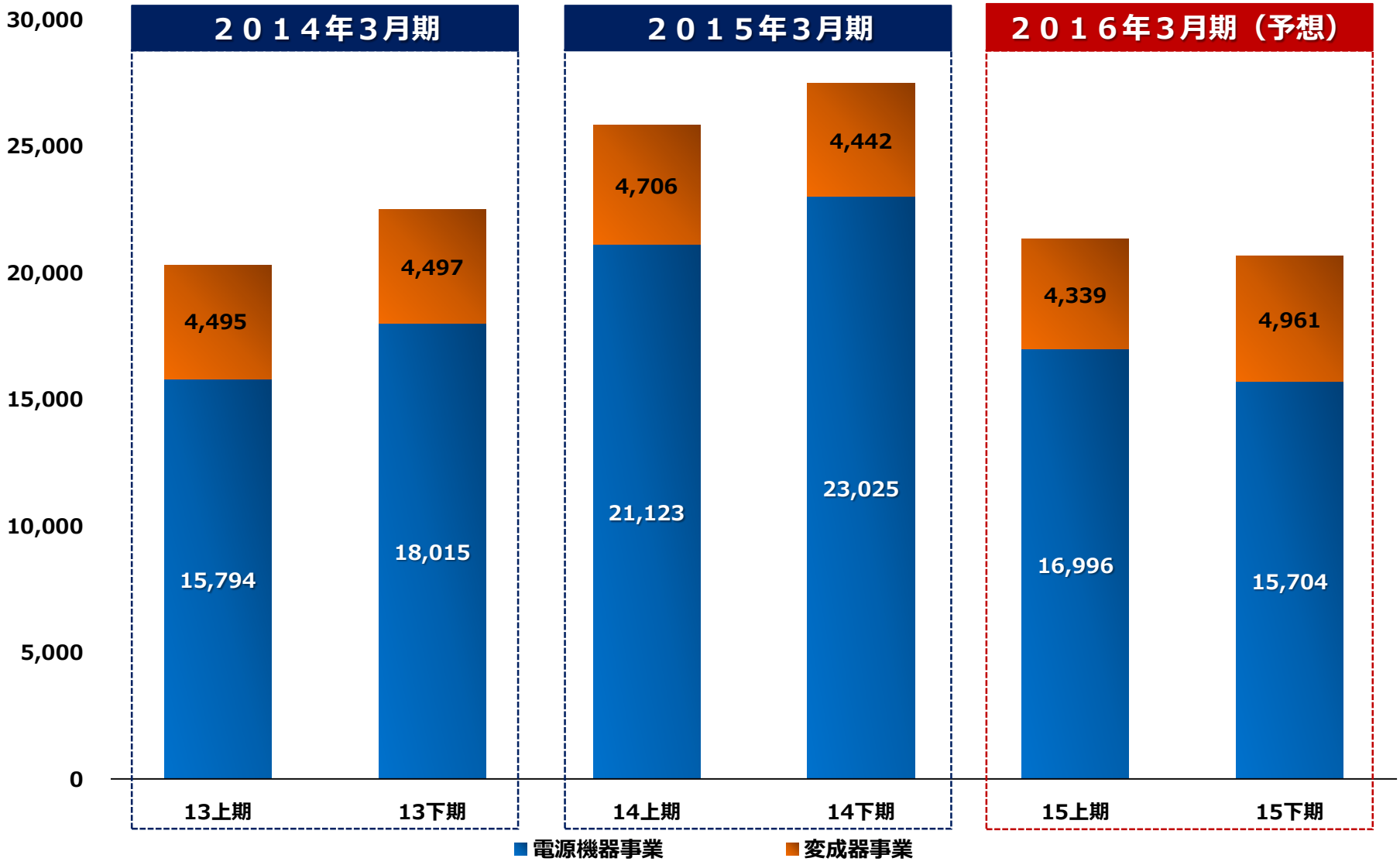
（出所：GTM Research）

北米市場展開について

北米市場の特徴と当社優位性

- 電力自由化の発達により、電力料金体系は多様かつ複雑であり、また州・地域によりその傾向は異なる
- その中でもデマンドチャージは州・地域により大きな違いがあり、デマンドチャージの負担が大きい州・地域においてはピーク・カット／シフトおよび非常用電源の確保が重要な課題である
- エネルギー需給調整が不安定な昨今においては益々デマンドチャージの高騰が予測され、デマンドチャージ回避に対する需要は単純な再生可能エネルギー導入による既存電源代替目的を上回って成長することが予測される
- さらに、カリフォルニア州では2020年までに合計容量130万kW相当の電力貯蓄システムを導入するよう上位3電力会社に義務付けるなど、蓄電池市場は活発化の一途にある
- このような環境において、米国市場においてもアナリストからその完成度が高い評価を受けている当社の太陽光発電・蓄電池のハイブリッドシステム「EIBS」は非常に大きな市場ポテンシャルがあり、引合も高まっている

＜予想＞連結セグメント別売上高推移



TABUCHI ELECTRIC

当資料に記載されている、当社又はグループに関する見通し、方針、戦略等は、現時点での入手可能な情報に基づき、合理的と判断した前提のもと予測したものです。実際の業績は今後起こりうる様々な要因によって異なることがあるということをご理解ください。